



「東アジア文化都市2015新潟市」開幕記念

千の風になって 絆トーク

東アジア文化都市の開幕を記念したトークを、2月21日、りゅうとびあコンサートホールで行いました。これは、名曲千の風になっての世界を自由に表現する音楽祭「千の風音楽祭」にあわせ開催したものです。日本・中国・韓国のアーティストと篠田市長が、文化を通じて3つの国の交流と今、そして未来について語りました。

東アジア文化都市2015新潟市
文化政策課 ☎025・226・2563

文化の力 歌の力

歌でつながる3つの国

市長 日本と中国、韓国との関係はこの4、5年の間、かなり心配な状況が続いています。これを文化交流で関係改善、局面打開しようと、日本、中国、韓国の文化大臣が意図して、2014年から開催しているのが「東アジア文化都市」です。それぞれの国で代表都、



「春や昔〜正岡子規のふるさとシンフォニー」を披露



ZERO

韓国出身。2004年に日本デビューし、ことしで日本デビュー11年目を迎える韓流歌手のパイオニア的存在。2007年には「千の風になって」を日本語、韓国語バージョンでカバーした



りこう 李広宏

中国蘇州市出身。歌手、執筆家として活躍。2008年に「千の風になって」中国語バージョン「我已成千之風」を発売。四川大地震、東日本大震災では、この歌とともに被災地を巡った



「千の風になって」の韓国語バージョンも歌唱

ふるさと新潟への想い

市長 新潟は文化の力を生かした「創造的なまち」と「持続可能なまち」、これを推進しようとしていて、国にもしっかり認識されています。もう少し市民の皆さんからも、新潟の文化が全国や世界に比べ、どんなにレベルが高いのかを認識してもらえたらと思っています。伝統に新しさも加えながら、市民の誇り「シビックプライド」を文化の力で作り出していきたいですね。

新井 私のふるさと新潟って、そんなにいいまちだったのかと、びっくりしましたね。現在進行形で創造性があり、常に変化しているという「チェンジング」の都市です。これが輝いているという証拠ですよ。日々変化している新潟の良さを一番知らないのは、市民かもしれないですね。

市長 ずっと新潟で暮らしていると、新潟の食のありがたさや人々の人情、気遣いが、当たり前前になっている部分があると思うんです。

新井 郷土愛がしっかり構築できた人になって初めて、海外の人たちとも交流ができるんじゃないでしょうか。

李 私は日本に来て28年目になりますが、世界のどこへ行ってもふるさとの話をします。自分を育ててくれたふるさとを愛する心が大切です。だからこそ、東京へ行っても、海外へ行っても、市民の皆さんには新潟出身であると、堂々と行ってほしいです。



「蘇州夜曲」や「千の風になって」の中国語バージョンを歌唱



このトークの内容は、市ホームページ内「新潟シティチャンネル」からも見ることができます

新潟シティチャンネル



あらい まん 新井 満

本市出身の芥川賞作家。作詩・作曲家や日本ペンクラブ顧問など多方面で活躍。「千の風になって」の訳詞・作曲により、平成19年日本レコード大賞作曲賞を受賞



しのだ あきら 篠田 昭

本市出身。昭和47年新潟日報社に入社。論説委員などを経て、平成14年9月に退社。同年11月、新潟市長に就任。昨年11月18日から4期目

市を決め、2015年、日本では新潟市を選定いただきました。日中韓の関係改善なら、中国総領事館と韓国総領事館がある新潟市は、大きな役割を果たせるんじゃないかと思えます。歌をはじめとする文化の力で切り開いていきたいですね。

李 四川大地震の時に現地に行って、「千の風になって」の中国語バージョンをがれきの上や小学校の前で歌いました。文化の使者としてこの歌を持っていき、歌と言葉を通じて、心を痛めている人たちの慰めになることができました。歌の力を感じました。

ZERO テレビでは厳しい政治のニュースが流れていますが、実際はこういった文化交流がすごく増えています。見えないところで仲間がたくさんいます。きょう歌った手をつないでみようよという曲は、歌を通して仲間としてやっていけたら、という期待を込めて作りました。きょう、その夢が叶った気がします。今後もこの曲をたくさん歌っていきます。

また、地方には、その土地の良さや感動があります。料理を食べれば素材がよく、新鮮でおいしいです。そして皆さんは人がよく、優しく、純粋です。郷土愛とは、ただ愛することではなく、心から自分のふるさとを誇りに思うことだと考えます。

新潟から文化でつながる1年に

市長 東アジア文化都市により1年間、日本、中国、韓国はお互いにもっと関係をよく知り、交流し、相互理解を進めていきます。その上で新潟は自らのアピールポイントを知り、それを伝えるためにどういったおもてなしをすればいいのかを考える。これが大事だと思います。

李 東アジア文化都市で中国の開催地に選ばれた青島は、アジアのベルリンといわれている美しいまちです。また、ビールが有名です。新潟との共通点は、美しいまちづくりとお酒です。文化に加え、酒や食などブラッスアルファの交流を進めることで、地域の活性化にもつながるのではないかと思います。

ZERO 韓国の文化には、韓国ドラマやKポップなどの韓流ブームがあり、この10年間で大きな変化がありました。ブームで終わるのではなく、継続し続けたいいろいろなことが生まれるのではないかと考えています。今の関係をもっと良くして、音楽の文化やドラマの文化などのつながりを持続してほしいですね。

新井 観光というのは「光を観る」と書きます。この光とは実は「宝物」という意味なんです。宝物を発見して見に行くということが観光なんです。その土地独自の宝物、それは農産物や文化的なもの、歌など、その土地の人が大切にしているもので、それが一番の観光資源です。地元の人や、自分たちの土地にはこんなに素晴らしい宝物がこんなにたくさんあると、PRしていき、PRしていく。この2つが大切ではないでしょうか。

市長 新潟市民は、私も含めて、あまり新潟について知らなかったのかもしれない。新潟には、こんなにもいろいろな宝物がたくさんあります。そして、それは成長し続けています。自分たちなりにその情報を学んで、その次に「新潟ってこんなにいいんだよ」とどんどんPRしていければいいのではないのでしょうか。世界から見たときに、新潟の自慢できるものは何なのか。日中韓で文化交流をするときに、新潟が本当に宝物として見ていただきたいものは何なのか。そういうものを吟味しながらネットワークを作っていく、ことしは東アジア文化都市に取り組んでいきたいですね。

「千の風になって」モニュメントの紹介

「千の風になって」の歌の心を次世代に伝えるため、平成24年に、川の風と海の風が行き交う「みなと・さがん」に市民の手で、モニュメントが建立されました=写真右下=。建立以降、モニュメントをゴールにしたまち歩きが行われるなど、市内外の多くの人に親しまれています。

千の風ゆかりのまちである北海道七飯町、本市に続き、今月には愛媛県西条市にもモニュメントが設置されました。



千の想いを千の風にのせて 一千の風音楽祭

多くの日本人の心をとらえた名曲「千の風になって」。この曲は本市出身の新井満さんが、ふるさとに住む大切な友人の悲しい出来事を悼んで作った作品です。本市ではこの曲を活用したまちおこしとして、「プロジェクト千の風ふるさと・新潟市」を立ち上げ、市民の皆さんとの協働によりさまざまな事業に取り組んできました。このプロジェクトの一つである「千の風音楽祭」。ことしは「東アジア文化都市2015新潟市」オープニングの一つとして位置付け開催しました。新井さんと日本・中国・韓国のゲストを迎えたスペシャルライブも行いました。



全員合唱の様子